

議事要旨

(委員)

- ・岡山県立大学生の約半分が、県内出身。大学1年生のときは桃太郎線を使って通学している。しかし、1年生の後期・2年生になると運転免許を取得して、電車ではなく、自家用車で通学するようになる。すると放課後等に岡山市や倉敷市に自家用車で遊びに出ている。もっと総社市の魅力を知ってもらえるような仕組みが必要。
- ・交通戦略を策定するなかで、コンパクトシティがひとつのキーワードになる。当然コンパクトシティを築くには時間がかかる。10年間の計画が適切なのか。
- ・交通手段が便利になっても、まちに魅力がなければ利用者は増えない。交通施策だけでまちを魅力的にし、人口を増やすことはできない。交通計画だけでなく、まちづくりの計画も同時に進めていく必要がある。
- ・総社市では雪舟くんという特色ある事業を導入しているが、本来は人口密度が高まってくると、定時定路線等を検討する必要もある。アンケート結果を見ても、雪舟くんの予約制に不便を感じている人が多い。
- ・現在、総社市・岡山市・JRで桃太郎線LRT化の協議を進めており、基本計画を策定していく予定である。
- ・市全体のまちづくりのなかの一つとして交通施策の検討を進める必要がある。中心部ばかりに集中してしまうと交通手段も中心部に集中し、周辺部の過疎化はさらに進んでしまうことが考えられる。小拠点となる地域の人口増もしっかり多方面で検討する必要がある。このことが市全体の人口増に繋がる。
- ・全体的にそれぞれの交通手段がバラバラに機能してしまっている。それらをどのように繋げていくのが重要。観光に雪舟くんを使おうと思っても、土日は動いていない。市外の人は利用できない。さらに1時間前までに予約しなければならない。これでは観光客は利用しない。雪舟くんのそもそもの目的や、観光にはどのようなものが必要なのか、ある程度の切り分けが必要なのではないか。
- ・例えば現在自分が通勤で使う交通手段は自家用車や自転車か徒歩。これが10年後になった時、どのような手段が必要になるのか。という視点でも検討していきたい。
- ・ある程度対象者を切り分けて、それぞれに必要な交通手段を検討していく必要がある。
- ・近い将来高齢化率は確実に高くなってくるので、市内の方を対象とした交通施策を考えつつも、外部の人たちの交通手段も考えていくことで、相乗効果が期待できる。
- ・どれだけ総社市に魅力をつくっていくのか。道の駅等、観光拠点となりうる施設を整備していくことも検討する必要がある。
- ・LRTについて、なぜ整備するのか、どのように利用してもらうのか、いかに魅力を知ってもらうのが大切。市民等に興味をもってもらう作業をもっと進めていく必要がある。また、服部駅前にもパーク&ライドを整備するなど、駅前広場の整備を併せた利便性の向上も進めていくべきである。

- どこに居住が集中し、どこに商業施設が集まるのか、土地利用やまちづくりの計画を示して、それに対しての交通手段をどうするかという流れで議論すべき。まちづくりと連携した計画を策定するためには、まずまちの将来像の方向性を示す必要がある。
- 現在総社市では外国人の人数が増えている。雪舟くんでも外国人がもっと利用しやすいように改善していくべきだと考える。
- 外出しないと言うのは、高齢者が中心だと思う。周辺部の方が中心部へ出られるように雪舟くんを利用してもらいたい。そのなかには、障がいがある方もおられるかもしれない。そのような人も気軽に乗れるようになるべき。(車椅子も含めて)
- 岡山市・倉敷市においても交通戦略や立地適正化計画を策定しているので、それらを参考にして、そのなかで総社市の立ち位置というものを踏み込んで検討していければと思う。

(事務局)

- まちづくりについては、現在都市計画課で「立地適正化計画」を策定しており、その内容と連動した交通戦略を策定したいと考えている。事務局としては、雪舟くんの改善策や駅への接続に定時性のある交通手段、観光における交通手段など、さまざま検討していることはあるが、委員の皆様の御意見をまずはお聞きしたいと考えている。都市の将来像や方向性については、次回会議では、ある程度具体的な内容をお示し、協議いただきたいと思います。